方形における散らし（7）

高木厚人
Atsuhito Takagi

作品題名　春の月

作品サイズ　九〇×七〇㎝

①素材

春の月さはらば雫たりぬべし（小林一茶）

歌意

春満月の豊満な月、その月はさわれば雫が垂れそうだ。

②行構成

寸松庵色紙の散らしをヒントにして二集団に文字を配した。

③文字構成

前半集団一行目は放ち書きで書き、柱となる二行目は連綿で書き、その二行が引き立てあうように構成、その左下に一文字配し押さえとした。

左下の後半集団一行目は渇筆で流れを受け継ぎ、二行目で墨を入れ全体を引き締めた。

④線

文字数の少ない俳句を素材としているので、作品が淋しくならぬ様、線の太細変化を要所要所で心掛け、また筆の毛のバネを生かすように心掛けた。

⑤墨量・用筆

明るく力強い作品を目指した。

⑥制作意図

瑞々しい春の満月が堂々と、生命みなぎって天空を横切っていく、そんな様をイメージして書き上げました。

春の月
佐者ら八
雫
た利怒
べし

90×70㎝